

2022 すいせん図書

～本の森へ～

中学生

西東京市図書館





図書館のホームページから、
すいせん図書を見ることができます

「あの湖のあの家におきたこと」

トマス・ハーディング 文 ブリッタ・テッケントラップ 絵 落合恵子 訳/クレヨンハウス

ベルリンのまちはずれにある湖のほとりに、一軒の木の家があります。100年近くも前に作者のひいおじいさんが建てたものです。ひいおじいさんの家族は、自然の中でとてもしあわせに暮らしていました。ところが、ある日、兵隊がドアをたたき、家族に家を出ていくよう命じました。歴史とともに静かに悲しく語られるある家の物語。



「霧見台三丁目の未来人」

霧見 だい 三丁目 の 未来人
緑川聖司 著 ポズ イラスト/PHP研究所

霧見台中学校に通う広瀬真尋は、文芸部に所属している。ちゃんと活動しているのは、真尋と、あかり、紀介のりぐらい。この町は霧が発生しやすく、「霧男」という都市伝説がある。「霧男」は白壁川の土手にあらわれ、未来を預言するという。真尋たちは預言について調べ始めた。「霧男」は未来人なのだろうか？



「縄文の狼」

今井 恭子 作 岩本ゼロゴ 絵/くもん出版

赤ん坊の時に狼にさらわれたキセキは、数か月後、狼の子といっしょに助け出される。

キセキ一家は、獲物を求め集団で住む場所を変えていく狩猟民族。キセキは狼の子といっしょに、狩りの仕方など山の民としての生き方を学んでいく。

1 万年以上前の縄文時代を舞台とした、人間と狼の絆の物語です。



「ボーダレス・ケアラー-生きてても、生きてなくてもお世話します-」

山本悦子 著／理論社

にん ちしょう
認知症の祖母は、飼っていた犬の 豆蔵が死んでから
も、空のリードを持って散歩に行っているという。心配
した母からの依頼で、大学生の海斗は夏休みを一人暮
らしの祖母の家で過ごすことになった。空のリードを
持つと見える、死んだはずの豆蔵と、生と死のはざま、
ボーダーラインに立っている存在「ボーダー」たち。彼
らの心残りを調べ、ケアしていく海斗のひと夏の物語。

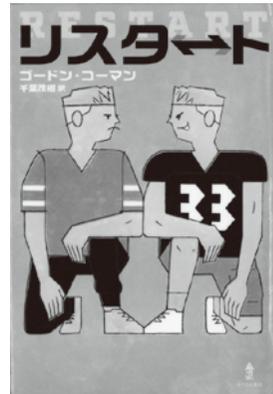


「リスタート」

ゴードン・コーマン 著 千葉茂樹 訳／あすなろ書房

チェース・アンブローズは、13歳。夏休みに、屋根か
ら落ちて頭を打ち、昏睡から目覚めた時には、記憶喪
失になっていた。

自分の名前も、家族・友人のこともわからないアン
ブローズ。学校では、アメフトの有名選手だったらし
いが、まわりの人の自分に対する反応は、どうもおか
しい。章ごとに語り手が変わっていく物語です。



「わたしが鳥になる日」

サンディ・スターク・マギニス 作 千葉茂樹 訳／小学館

鳥が大好きな十一歳の女の子デセंबरは、いつか
鳥になって空を飛べると信じている。何人もの里親の
元を転々としても、鳥になって飛び去る自分には家族
も友だちもいらないと過ごしてきた。だが、新しく里親
になったエリナーと、新しい学校で出会ったシエリル
リンと過ごす中で、デセंबरの気持ちは変化してい
く。つらい過去をのりこえ、前へ進んでいく希望の物語。



「古墳のなぞがわかる本」

河野正訓 監修／岩崎書店

近年「古墳」が静かなブームになっているようです。2019年、大阪の「^{もず}百舌鳥・^{ふるいち}古市古墳群」がユネスコの世界文化遺産に登録され、ますます注目を浴びる古墳。きっと当時の権力者のお墓ということを知っている人は多いですね。でも同じような形の古墳が全国各地にあるのはなぜでしょうか。日本各地の様々な古墳を紹介しながら、古墳のなぞに迫ります。

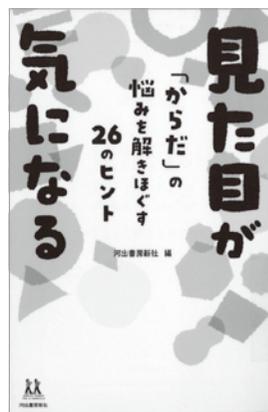


「見た目が気になる-「からだ」の悩みを解きほぐす26のヒント-」

河出書房新社 編／河出書房新社

人はどうして「見た目」が気になるのでしょうか。この本では、26人の様々な立場の人たちが「見た目」について語っています。多種多様な考え方に触れることにより、今までと違う視点で「見た目」と向きあうきっかけになり、生きることが楽になるかもしれません。

「見た目」について考えさせられる本です。



「めんどくさがりなきみのための文章教室」

はやみねかおる 著／飛鳥新社

ぼくが出会った猫ダナイは、宿題に出た『中学2年生になっての^{ほうふ}抱負』という作文を手伝ってくれるという。ぼくが文章を書けない理由に「何を書いていいかわからない、めんどくさい、文がうまく書けない」と伝えると、「めんどくさいと思うことは才能！」とダナイは褒めた。文章を書くためのダナイのアドバイス、参考になります。

